



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	遠隔交流が創出する学びの経験とその価値：中国語学習における異文化体験の質的分析
Author(s)	杉江, 聡子; 三ツ木, 真実
Citation	e-Learning教育研究, 10, 1-13
Issue Date	2015-12-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62170
Type	journal article
File Information	WELL_sugie_mitsugi_Vol10.pdf



遠隔交流が創出する学びの経験とその価値

ー中国語学習における異文化体験の質的分析ー

杉江 聡子・三ツ木 真実

(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院)

1. はじめに

近年、外国語教育における ICT 活用が強く求められている。情報化時代を生き抜くための知識やスキルを育成することを目的として、文部科学省では ICT 活用教育を推進してきた。その指導方法、教育・学習の目標や使用ツール等も徐々に開発され（表 1）、実践と評価が期待されている。

表 1 ICT を活用した指導方法の開発

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。	デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。	タブレット PC や電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。
A1 教員による教材の提示：画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	B1 個に応じる学習：一人一人の習熟の程度等に応じた学習	C1 発表や話し合い：グループや学級全体での発表・話し合い
	B2 調査活動：インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録	C2 協働での意見整理：複数の意見・考えを議論して整理
	B3 思考を深める学習：シミュレーションなどデジタル教材を用いた思考を深める学習	C3 協働制作：グループでの分担、協働による作品の制作
	B4 表現・制作：マルチメディアを用いた資料、作品の制作	C4 学校の壁を越えた学習：遠隔地や海外の学校等との交流授業
	B5 家庭学習：情報端末の持ち帰りによる家庭学習	

文部科学省（2014:32）を改変

また、外国語教育においては、「異文化能力 (Intercultural Competence)」(Byram, 1997) も重視されている。グローバル化に伴い多文化共生社会が著しい進展を見せる中で、世界中の人々と接触する機会を教育現場で提供することが求められてきた。このような中で、日本人学習者の海外留学や、外国人留学生との交流活動等が促進されている。さらに近年では、学校の教室環境で ICT を活用し、実際の交流・対話の経験を伴って異文化に生きる人々と接触する機会を学習者に提供する試みが実践されている。そこで本研究では、中国語教育をフィールドとし、学習者の知識や技能を実践的に活用する機会を実現するために、遠隔交流を含むブレンド型学習をデザインした。そして、学習者がどのように学びの経験と学習成果を価値づけたかを明らかにすることを目的とした。また、どのような学びの経験と価値が、異文化能力の基礎となるか探究することもねらいとした。

2. 遠隔交流の経験と学びの価値の探究

外国語教育では、外国語運用技能を高めるにはコミュニケーション場面におけるインタラクション経験が必要不可欠と考えられており、留学や交流の機会を教育の現場で提供することが重視されてきた。中国語教育・学習の領域で海外との学校間交流や遠隔学習を活用した実践研究には、早稲田大学の多言語遠隔交流 Cross-Cultural Distance Learning (CCDL) (砂岡, 鄭, 植屋, 谷川, 2011) や、SNS 及び遠隔交流を活用した日本と台湾の協同学習 (城間, 2013) がある。砂岡らは教育効果の量的検証、城間は教育効果の簡易的な質的評価を行っている。これらが扱う外国語のスキルアップや協同学習をねらいとした実践から得られる示唆は大きい。さらに、遠隔学習の実践と学習者視点の学びの質に注目し、機械的な作業や語句・文法の断片的な知識からは得られない学びの価値とはどのようなものか、混合研究法により分析を試みた実践研究もある (杉江, 三ツ木, 2015)。しかし、継続的な遠隔交流を通じた学習経験と学習成果の価値を探究し、学習者の視点を教育活動の評価に取り入れた研究は少数である。

3. 異文化能力モデル

異文化接触の場面における対人インタラクションに着目し、そのプロセスにおいて必要な能力を表す概念として、「異文化能力 (Intercultural Competence)」モデル (Byram, 1997) がある。このモデルは、Council of Europe 発行の「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」(2004) において、言語学習と言語教育の枠組みの設定にも参照されている。その中で定義されている「異文化能力」モデルは、「知識 (knowledge)」 「解釈と関連付けるスキル (skills of interpreting/relating)」 「発見と相互作用のスキル (skills of discovery/interaction)」 「態度 (attitudes-curiosity/openness)」 「批判的な文化的気づき (critical cultural awareness)」 の 5 つの要素が含まれる (表 2)。本研究の遠隔交流は、異文化コミュ

ニケーションの経験を通じて異文化能力にかかわる気づきの獲得が期待される実践といえる。Byram のモデルを利用することで、どのような学びの経験と価値が異文化能力の基礎となり得るかを具体的に探究することが可能となる。

表 2 異文化能力モデルの 5 つの要素

知識	自身の国、また対話する相手の国における社会集団とその生産物と慣習について、そして社会的な、また個々の相互行為の一般的な過程について（の知識）。
解釈と関連付けるスキル	他の文化の文書や出来事を解釈する能力、それを説明し、自文化の文書や出来事と関連させる（能力）。
発見と相互作用のスキル	文化及び文化的慣習についての新しい知識を得る能力と、即時的状況のコミュニケーションと相互作用において知識、態度と技能を運用する能力。
態度	好奇心と開かれた心、他文化への不信と自文化への信頼を保留する心構えができていていること。
批判的な文化的気づき	批判的に、そして明確な基準に基づいて、自文化および他文化、他国の視点、慣習、生産物を評価する能力。

バイラム 齊藤訳, (2011:137-139) より引用, () 内は筆者による補足

4. リサーチ・クエスチョン

本研究では、遠隔交流を活用したブレンド型学習を実践し、交流や対話を通じて創られた学びの経験や価値を解釈するために、リサーチ・クエスチョン 1 (RQ1) を設定した。また、RQ1 で明らかとなったどのような「学びの経験と価値」が異文化能力の基礎となり得るかを探究したいと考え、リサーチ・クエスチョン 2 (RQ2) を設定した。

RQ1：遠隔交流を通じて中国語母語話者との実際のコミュニケーションにおけるインタラクションの経験を蓄積した学習者は、どのような学びの経験と価値を見出すのか。

RQ2：遠隔交流を通じて得られた「学びの経験と価値」は、異文化能力を構成するどの要素につながるのか。

5. 研究方法

5. 1 遠隔交流を活用したブレンド型学習の実践

本研究の遠隔交流は、高校中国語のためのブレンド型学習モデルの一部分である。ブレンド型学習とは、様々なメディアを活用して対面授業とオンライン学習を統合し学習環境をデザインするための理論体系である。本研究では、(1) 語彙・文法学習中心の対面授業、(2) ICT 活用技能訓練中心の Web-Based Training (WBT)、(3) 日本と中国の遠隔交流、の 3 形態を有機的に組み合わせた循環型のブレンド型学習モデル (図 1) を設計した。「有機的」とは、3 つの学習形態を構成する複数の学習要素とその学習を経験した学習者の知識や技能が相互に連携し、学習した内容を実践的に使用する「本番」のステージともいえ

る遠隔交流の場で様々なパフォーマンスとして発揮され、効果的に作用することを示す。このモデルでは、「対面授業, e ラーニング, 遠隔交流」の1つのサイクルが次のサイクルへと連続的に発展していく。なお本稿では、学習歴2年目の実践を扱う。

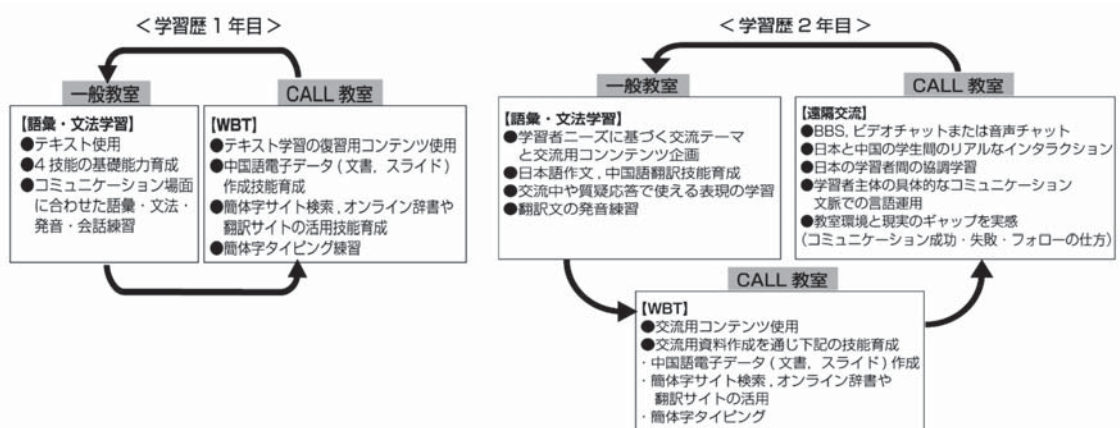


図1 遠隔交流を活用したブレンド型学習のモデル

遠隔交流の参加者は、日本側が公立高校の3年生（7名）、中国側は吉林省の大学3年生と4年生（3名）であった。日本側は第二外国語科目として1年間の中国語学習歴を持ち、中国側は外国語学部日本語専攻であった。日本側は高校から教師のパソコン端末と無線ネットワーク（wi-fi）を利用し、中国側は学生寮から個人所有のパソコン端末と学内の有線ブロードバンドネットワークを利用して接続した。

5. 2 質的データ分析を用いた評価

本研究では、SCAT (Steps for Coding and Theorization) を援用して分析と解釈を行う。SCATは大谷（2008, 2011）が提唱する質的データ分析のためのステップ・コーディングと理論化の手法である。分析のプロセスでは、初めに自由記述やインタビュー等のテキストから、「<1>テキスト中の注目すべき語句」を抜き出す。次に、「<2>テキスト中の語句の言い換え」を行い、「<3>左を説明するようなテキスト外の概念」でデータからはわからない背景や状況を補足する。さらに、データ全体を説明し得るような「<4>テーマ・構成概念」を創出し、新たに浮上した「<5>疑問・課題」を記述する。<1>から<4>を再文脈化して「ストーリーライン」を作り、更に抽象化させた「理論記述」を構築する。通常、質的データ分析は分析者の経験や主観に基づき行われるため、手続きの不透明さや解釈の恣意性が指摘される。これに対し SCAT は、質的データ分析のコーディング、カテゴリ化、理論化の

プロセスにおいて、手続きや解釈の過程が明確であること、小規模データにも適用できることが特徴であり、本研究の分析手法として適切であると考えた。なお、本研究では、個人の語りから経験と価値を深く掘り下げて解釈した学習者全員のストーリーラインに基づき、各自が得た学びの経験や価値を解釈した。また、解釈の信頼性を高めるための方略として、2名の研究者（筆者ら）による複眼的な分析を行った。

遠隔交流のトピックは、(1)挨拶・自己紹介、(2)テーマ別交流（日本と中国の学習者自身が相手と話したい・聞いてみたいトピックを決定）、(3)学校祭、(4)夏休み、(5)テーマ別交流に関する質疑応答の5つであった。本稿では、(1)を分析対象とし、日本側の学習者のみ（7名）に関する分析を行った。

6. 結果と考察

6. 1 リサーチ・クエスチョン1

RQ1 についての分析結果を以下に示す。SCAT を援用して分析した表は付録の通りである。分析対象の学習者は、男子学生1名（YZ と記載）、女子学生6名（YG、KBY、HM、FY、KB、KBA と記載）である。

YZ は、中国人学生とのビデオチャット交流を通じて、中国語コミュニケーションの成功体験を獲得したことに満足した。同時に、自分の中国語コミュニケーション技能不足を痛感し、その向上を課題として認識した。また、中国人とのビデオチャットは新鮮な体験として印象づけられた。YZ にとっての交流は、中国語コミュニケーションの成功体験と自身の技能不足に対する気づきをもたらす貴重な機会及び体験として意味づけられた。

YG は、遠隔交流活動時に、自分の発言に対する交流相手の反応を深く観察し、それにより交流相手との意思の疎通を実感することで、コミュニケーションの成功体験を得た。同時に、今後の交流継続に対する期待を高めた。交流時の緊張感によるネガティブな影響が原因で、即時の発話が困難となり、十分に能力が発揮されなかったことから、発音練習の強化や中国語コミュニケーション技能向上の必要性を強く感じ、目標意識を高めた。また、相手の日本語能力の高さをポジティブに評価した。

KBY は、遠隔交流前から強い緊張・不安を認識していたが、交流相手の反応により意思伝達の不安が緩和され、コミュニケーション成立の喜びを実感した。交流を通じて、楽しい会話の成立のためには正確な発音の習得が不可欠であると認識し、適切な質疑応答能力と併せて習得したいと感じた。

HM は、遠隔交流の体験に強い喜びを感じ、ポジティブに評価した。そして、交流相手の外国語運用技能の高さを認識し、尊敬の念を抱き理想の自分へ投影すると同時に、それが中国語の学習動機の上にも反映された。また、一定程度のコミュニケーション成立を経験した上で、よりスムーズな交流を成立させて会話を楽しむためには、事前準備の強化

による中国語コミュニケーション技能の向上が必要であると認識した。

FY は、中国語コミュニケーション能力不足を痛感して深く反省し、事前準備の強化の必要性を認識した。一方で、自己紹介の成功に対する喜びも感じた。また、ビデオチャットならではの視覚情報から交流相手に対する好意的な印象を受けた。

KB は、相手の反応からコミュニケーション成立を実感し、遠隔交流前から認識していた不安が緩和された。また、課題の達成感と交流の成功体験を得た。そして、教師の支援なしで交流することの困難を認識し、中国語コミュニケーション技能（特に語彙）不足を自覚したことから、明確な目標を設定し、その実現を目指して学習動機が向上した。

KBA は、初めての遠隔交流に対して、対面交流体験の機会に対する価値をポジティブに評価した。また、交流相手の態度によるコミュニケーションの達成感や実践的な語句活用の達成感を得た。そして、事前準備と中国語コミュニケーション能力の不足を自覚したこと、学習動機が向上した。

また、学習者一人ひとりの学びの経験と学習成果及びその価値を捉えやすくするために、SCAT（付録を参照）の「<1>テキスト」、「<3>左を説明するようなテキスト外の内容」、「<4>テーマ・構成概念」及び「ストーリーライン」に基づき概念を整理し、図2に示す。

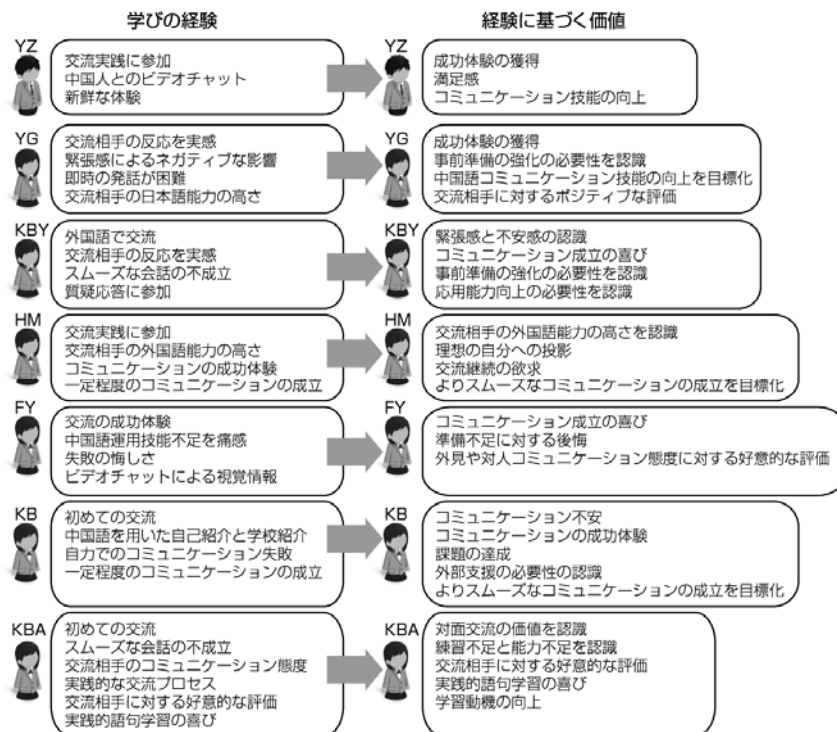


図2 遠隔交流トピック「挨拶・自己紹介」による学びの経験と価値

6. 2 リサーチ・クエスチョン2

RQ2について、遠隔交流から得られた「学びの経験と価値」が、異文化能力を構成するどの要素につながるか探究した。学習者の自由記述を異文化能力モデルの定義に基づき分類し、全体共通概念をまとめた結果、5つの要素のうち、「知識」、「発見と相互行為のスキル」及び「態度」につながる経験が埋め込まれていることがわかった（表3）。「解釈と関連付けるスキル」は、理解、解釈、概念の再構築及び表現というプロセスの繰り返しによって向上するものであり、初回の交流限りでは経験が十分に蓄積されなかったため「該当なし」とした。「批判的な文化的気づき」については、分析対象が「挨拶・自己紹介」をテーマとした遠隔交流であり、文化的事象について他国の視点、慣習、生産物を批判的に評価する内容は含まれなかったために「該当なし」とした。

異文化能力モデルの5つの各要素に対応する全体共通概念は以下の通りである。

・知識

学習者は、つたない中国語での発話に対する交流相手の言語的・非言語的な反応を受け、異文化に生きる同世代の相手がどのようにふるまう社会集団であるかを理解した。これは、初回の交流をきっかけに、相手の国における社会集団についての知識と個人間の相互行為の一般的な行われ方についての知識を得たと考えられ、「知識」に該当する。

・解釈と関連付けるスキル

質疑応答のプロセスでは、中国側の交流相手の話す出来事を解釈した上で、日本の高校生の場合はどうか、自文化に当てはめて関連付ける必要がある。さらに、自分たちの解釈を相手にわかる表現で説明することによってコミュニケーションが成立する。このプロセスの繰り返しが、他の文化の出来事を解釈し自文化の出来事と関連させる能力につながるものであり、初回の交流の段階ではこのような反復的なプロセスは十分に経験できていない。ただし、学習者は、「質疑応答もしっかりできたらいい（KBY）」、「もっと会話のキャッチボールができるように成長したい（HM）」、「質問されても、まだ先生が訳してくれなきゃ理解できないので、もっと単語を覚えて、自分で理解して答えられるようになりたい（KB）」のように、スムーズな質疑応答や会話のキャッチボールを成立させ交流を継続したいと感じており、初回の交流経験がこのスキルにつながる気づきをもたらしたといえる。

・発見と相互行為のスキル

質疑応答形式の対話が成立したこと、教師の支援を得ながら自分の知識や技能により一定のコミュニケーションに成功したことから、学習者が即時的状況におけるコミュニケーションと相互作用の場面で知識、態度、技能を適切に発揮したことがわかる。一方で、練習通り正確な発音でスムーズに発話できない、あるいは相手の話を即時に聞き取れないというコミュニケーションの失敗体験に基づき、練習不足の自覚や反省も生まれた。前者は発見と相互行為のスキルが適切に運用されたことを示し、後者はより円滑なコミュニケー

ションを成立させるために、このスキルの基礎となる言語的・非言語的な能力を高めたいという意欲が形成されたことを表している。

・態度

交流時のわくわくするような心情や、今後の交流継続に対する期待感を抱き、十分な好奇心と相手と積極的に関わろうとする心構えが形成、醸成されたことがわかる。これは、好奇心と開かれた心の保持を示すものであり、「態度」に該当する。

・批判的な文化的気づき

初回の遠隔交流は、「挨拶・自己紹介」をテーマとしたものであり、双方の文化的事象について他国の視点、慣習、生産物を批判的な視点で評価する内容は含まれなかった。

表 3 遠隔交流の経験に埋め込まれた異文化能力につながる要素

学習者	知識	解釈と関連付けるスキル	発見と相互行為のスキル	態度	批判的な文化的気づき
	自身の国、また対話する相手の国における社会集団とその生産物と慣習について、そして社会的な、また個々の相互行為の一般的な過程について（の知識）。	他の文化の文書や出来事を解釈する能力、それを説明し、自文化の文書や出来事と関連させる（能力）。	文化及び文化的慣習についての新しい知識を得る能力と、即時的状況のコミュニケーションと相互作用において知識、態度と技能を運用する能力。	好奇心と開かれた心、他文化への不信と自文化への信頼を保留する心構えができていること。	批判的に、そして明確な基準に基づいて、自文化および他文化、他国の視点、慣習、生産物を評価する能力。
Y Z	・向こうの生徒たちはとてもノリの良い人ばかり	該当なし	・自己紹介もわりとうまくいき、相手にも伝わったと思う ・早く耳を慣らして質疑応答を素早くできるようにしたい	該当なし	該当なし
Y G	・中国側の人々がうなずいてくれた	該当なし	・交流が始まったらすごく緊張して発言とかぐちゃぐちゃになってた ・会話が成り立ってる感じがした ・もっと発音とか練習してスムーズに会話ができたらいい ・あいづちをもっと打てるようになれたらいい	・次回がとても楽しみ	該当なし
K B Y	該当なし	該当なし	・発音もピンイン（声調の意味）もめちゃくちゃだった ・もっと練習して相手とちゃんと会話したい ・質疑応答もしっかりできたらいい	・今日以上に会話を楽しみたい	該当なし
H M	該当なし	該当なし	・もっと会話のキャッチボールができるように成長したい	・もっと練習してこれからも会話を楽しみたい ・これからもがんばる	該当なし
F Y	・中国の人たちは、やさしくて、かっこよくて、かわいかった	該当なし	・自分の中国語のできなさを痛感した ・言いたいことをうまく表現することができず ・もっとしっかり準備をしてから交流したい ・自己紹介は通じた	該当なし	該当なし
K B	該当なし	該当なし	・質問されても、まだ先生が訳してくれないうちや理解できないので、もっと単語を覚えて、自分で理解して答えられるようになりたい ・もっとスムーズなコミュニケーションがとれるように頑張る	該当なし	該当なし
K B A	・L先生はとても優しく接してくれて	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

全体共通概念	- 異文化に生きる同世代の相手がどのような集団であるか（表情、態度）を非言語的な要素から知る - 異文化に生きる同世代の相手が対話という相互行為の場面においてどのように応対するかを知る	該当なし	- 即時的状況におけるコミュニケーション場面での知識、態度、技能の適切な運用に成功 (1) 質疑応答形式の対話が成立 (2) 教師支援が不可欠な場面もある - 相手の国や社会集団について知るために、即時的状況でのコミュニケーション場面における知識、態度、技能の適切な運用の必要性を認識 (1) コミュニケーションの失敗体験 (2) 練習不足の自覚 (3) 円滑なコミュニケーション成立への欲求	- 好奇心と開かれた心の形成・醸成 (1) 交流時のわくわく感 (2) 積極的に交流継続しようとする心構え	該当なし
--------	---	------	--	---	------

7. まとめと今後の課題

本研究では、日本と中国の遠隔交流の感想に基づきどのような学びの経験や価値が創られたかを解釈し、その経験や価値が異文化能力のどの要素の基礎となるのかを探究した。RQ1については、相手の巧みな日本語、ビデオチャットならではの視覚情報による親近感の形成と緊張・不安の緩和、会話のキャッチボール成立の経験を背景として、主体的なコミュニケーションの成功から喜びや価値が見出された。また、学習者はコミュニケーションの失敗体験から事前準備と中国語運用技能の不足を反省し、発音や質疑応答の技能向上の必要性に気づき、課題や目標として明確化した。その上で、交流継続の意義を感じ、学習動機が向上したことも学びの経験から生まれた価値といえる。RQ2については、遠隔交流を通じて創られた学びの経験や価値が、「知識」、「発見と相互行為のスキル」、「態度」の3つの異文化能力の要素につながることがわかった。「解釈と関連付けるスキル」については、スキルの習得を目指す過程で必須となる気づきを得ていた。「批判的な文化的気づき」については、このスキルを発揮する交流トピックではなかった。異文化能力モデルに含まれる能力やスキルを高めるためには、異文化に生きる人々や異文化環境に接触する経験を継続的、長期的に蓄積することが前提となる。そのため、今回の遠隔交流は、異文化能力を形成する下地としての異文化体験となることが示唆される。

本研究の結果は、断片化された知識の学習や中国語運用技能の訓練のみからは得られない経験に基づく、異文化間交流ならではの学習成果と価値であろう。高校中国語のフィールドでは、教室環境で同年代の母語話者と対面交流する機会は稀少である。そのため本研究は、遠隔交流の形態で双方の対話を実現したことに大きな意味を持つ。学習者視点の学びの経験、学習成果及びその価値は、遠隔交流におけるインタラクションを経験することなしには獲得し得ないものであり、この経験は学習動機の向上を促し、異文化能力を形成する糧となるだろう。異文化能力の重要性は、ヨーロッパのような多文化共生の文化的土壌を前提とするものであり、今後、日本も同様の社会構造へ進展すると予想される。そのため、更に広義の異文化能力を捉え直す必要がある。

今後は、他の交流トピックに基づく遠隔交流を通じて学習者がどのような学びの経験と価値を得たのかを詳細に分析する必要がある。また、文化的側面をトピックとする遠隔交

流が、異文化能力モデルのどの要素につながるかを探究することも求められる。多文化共生の時代を生き抜く学習者を育成するために、日本国内の第二外国語学習環境の整備・改善を繰り返し、教室環境における円滑な異文化間交流と、それを通じた異文化能力の育成を目指す研究を実施することが今後の課題である。

参考文献

- Byram, Michael (1997) *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence*, Bristol UK: Multilingual Matters.
- Byram, Michael (2009) “The intercultural speaker and the pedagogy of foreign language education” in Deardorff, D. K. (ed.) *The Sage Handbook of Intercultural Competence*, pp. 321-332, London: Sage.
- バイラム・マイケル（著）、齊藤美野（訳）（2011）「第Ⅰ部 異文化コミュニケーション：外国語教育から異文化市民の教育へ」、鳥飼玖美子、平賀正子、野田研一、小山亘（編）『異文化コミュニケーション学への招待』, pp. 121-149. 東京：みすず書房.
- 文部科学省（2014）「ICT を活用した教育の推進に関する懇談会」報告書（中間まとめ）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1351684.htm (accessed 2015.6.1).
- 大谷尚（2008）「4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続—」, 『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』, 第 54 巻第 2 号, pp. 27-44.
- 大谷尚（2011）「SCAT: Steps for Coding and Theorization—明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法—」, 『感性工学』, Vol.10, No. 3, pp. 155-160.
- 城間真理子（2013）「コミュニケーション力と協働力の育成をめざして—高校中国語教育での実践報告—」, 中国語教育学会『中国語教育』, 第 11 号, pp 33-45.
- 杉江聡子, 三ツ木真実（2015）「遠隔交流を活用した中国語ブレンディッド・ラーニングの実践と混合研究法による評価」, 『教育システム情報学会誌』, Vol.32, No.2, pp. 160-170.
- 砂岡和子, 鄭偉, 植屋高史, 谷川栄子（2011）「チャット交流における学習者のテーマ選好と言語知識の獲得」, 『電子情報通信学会教育工学研究会技術研究報告』(教育工学) ET2010-79, Vol. 110, No. 405, pp. 13-16.
- 吉島茂, 大橋理枝, 奥聡一郎, 松山明子, 竹内京子（2004）『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』, 東京：朝日出版社
http://www.dokkyo.net/~daf-kurs/library/CEFR_juhan.pdf (accessed 2015.8.4).

付録 SCAT(Steps for Coding and Theorization)を使った質的データ分析の例 (交流トピック：挨拶・自己紹介)

番号	テキスト	①>テキスト中の注目すべき語句	②>テキスト中の語句の言い換え	③>左を説明するようなテキスト外の概念	④>テーマ・構成概念	⑤>疑問・課題
学生 Y Z	【良かった点、以下同】なかなかこのような機会がないのでとても良い体験になりました。自己紹介もわりとうまくいき、相手にも伝わったと思うので、とても良かったです。向こうの生徒たちはとてもノリの良い人ばかりだったので自分としてもかなりリラックスして会話できました。	機会がない、自己紹介もうまくいった、相手の生徒はノリの良い人ばかりだった、リラックスして会話できた	貴重な機会、自己紹介の成功、相手の人柄、会話の雰囲気、安心感	インタラクティブ（原因）、コミュニケーションの成功（結果）	交流実践、満足、成功体験の獲得	自己紹介がうまく相手に伝わったと感じたのは相手のどのような反応によるものか？相手のどのような言動でノリが良いと判断したのか？他の学生はリラックスしていたか？
	【今後の課題、以下同】ですが、やはりまだまだボキャブラリーが少ないので、これは課題だと思いが難い単語もあったので、早く耳を慣らして質疑応答を素早くできるようにしたいです。	まだボキャブラリーが少ないリスニングで聞き取ることが難しい単語もあった。耳を慣らす、質疑応答を素早くできるように	語彙不足、聞き取り能力不足、聞き取り能力の向上、スムーズな質疑応答	中国語コミュニケーション技能の不足（原因）	コミュニケーション技能の向上	聞き取れなかった単語は何か？質疑応答はどのように行われたのか？
学生 Y G	【その他、以下同】今回、中国人と初めて skype をやりました。	中国人と初めて skype をやりました	skype 初体験	体験の新規性（原因）	ビデオチャット、新鮮な体験	二回目以降も楽しいか？
	でも、中国側の人からうなずいてくれたり、言うことを理解してくれたりしてうれしかったし、会話が成り立って感じました。次回がとても楽しみです。	中国側の人からうなずいてくれた、言うことを理解してくれた、会話が成り立っている感じがした、次回が楽しみ	交流相手のあいづち、発言が理解される、会話の成立、次回への期待	インタラクティブ時の相手の反応（原因）、交流の成功体験（結果）、交流継続の欲求（結果）	交流相手の反応、成功体験	該当なし
学生 Y G	自己紹介をあらかじめスクリプト書いていたけど、交流が始まったらすぐ緊張して発言とかぐちゃぐちゃになってた気がします。次のときでももっと発言とか練習してスムーズに会話ができればいいなと思います。あいづちをもっと打てるようなれたらいいなと感じました。	自己紹介をあらかじめスクリプト書いていた、緊張が始まったらすぐ緊張して発言とかぐちゃぐちゃになってた感じがします。次のときでももっと発言とか練習してスムーズに会話ができればいいなと思います。あいづちをもっと打てるようなれたらいいなと感じました。	自己紹介の事前準備、交流時の緊張、準備ができていない、スムーズな会話、発言練習の必要性、あいづち練習の必要性	緊張感によるネガティブな影響、コミュニケーションの失敗（原因）、発音練習強化の必要性（結果）、即時適切な応答表現の習得願望（結果）	緊張感によるネガティブな影響、発音練習強化、中国語コミュニケーション技能の向上、目標意識	なぜ緊張したのか？練習ではどの程度できていて、本番でどのような失敗したのか？なぜあいづちが重要だと思ったのか？
	中国側の人たちは日本語がとても上手です。中国側の人たちは日本語がとても上手です。中国側の人たちは日本語がとても上手です。	中国側の人たちは日本語がとても上手です	交流相手の日本語能力の高さに対する尊敬	外国語能力の高さに対する憧れ（原因）と敬意（結果）	交流相手の日本語能力の高さ、交流相手に対するポジティブな評価	自分よりも上手だから「すごい」のか？
学生 K B Y	始まる前からすごいきんちゃんようとして自分の言いたいことがちゃんと相手に伝わるかどうか不安だったけど、相手から反応があったうれしかった。	始まる前からすごいきんちゃんよう、言いたいことがちゃんと相手に伝わるかどうか不安だった、相手から反応があった	異常な緊張感、意思伝達への不安、交流相手の反応に対する喜び	外国語で交流（原因）、緊張感と不安感（結果）、交流相手の反応（原因）、コミュニケーション成立（結果）	交流前の緊張、不安の認識、交流相手の反応、緊張、不安の緩和	なぜ開始前からそこまで緊張していたのか？どのように緩和されたのか？
	でも発音もピンイン（声調の意味）もめっちゃくちゃだったのだから次回参加する時はもっと練習して相手とちゃんと会話をしたいです。そして、今日以上に会話を楽しみたい。質疑応答ももっといいなと思います。	発音もピンイン（声調の意味）もめっちゃくちゃだった、もっと練習して相手とちゃんと会話をしたい、今日以上に会話を楽しみたい、質疑応答ももっといいなと思います。	発音と声調が不適切、練習不足、会話成立の目標、会話を楽しむことへの期待、質疑応答成功への意欲	スムーズな会話の不成立（原因）、事前練習の強化の必要性（結果）、応用力向上の必要性（結果）	正確な発音の習得、楽しい会話、コミュニケーション成立の喜び、質疑応答に参加、適切な質疑応答能力	めっちゃくちゃとは何がどうなっていたのか？なぜそう感じたのか？
	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

学生 H M	太好了(とてもよかったです)！すごく楽しかったです。みんな日本語が上手でとても励まされました。 もっと練習して、これから会話を楽しみたいです。これからがんばることができるように成長したいです。	よい、楽しい、交流相手の日本語が上手、励まされる もっと練習する、会話を楽しくする、これからがんばることができるように成長したい	ポジティブな感情、交流相手の日本語能力が高そうと思う 練習不足、会話を楽しくする、努力、モチベーション、努力、目標、成長への意欲	交流実践に参加、コミュニケーションの成功体験(原因)、交流相手の外国語能力の高さ(原因)、理想の自分への投影(結果) 遠隔交流準備の原稿を用いた、発音練習(原因)、練習不足(原因)、練習強化の必要性を認識(結果)、交流継続の意欲(結果)、より高度な言語コミュニケーションへの欲求(結果)	交流体験に対する肯定的評価、理想の自分への投影、交流相手の言語運用技能に対する認識、学習動機の高さ 事前準備の強化、一定程度のコミュニケーション成立、中国語コミュニケーションスキームズなコミュニケーションの成立を目標化	何がどう楽しかったのか？「励まされた」の具体的な意味は何か？ 何をどう練習して頑張る必要があると感じているのか？どの程度会話が成立したのか？
学生 F Y	とてもまあ…自己紹介は通じたので、嬉しかったです！ とりあえず、自分の中国語のできなさを感じて、言いたくないことをうまく表現することができず、悔しかったので、次回はいっしょに準備してから交流したいです。 中国の人たちは、やさしくて、かっこよくて、かわいかったです。	自己紹介は通じた、嬉しかった 自分の中国語のできなさを痛感した、言いたくないことをうまく表現することができず、悔しかった、次回はもっとしっかりと準備をしてから交流したい 中国の人たちは、やさしくて、かっこよくて、かわいかったです。	自己紹介の成立、ポジティブな感情 中国語運用技能不足の認識、表現の失敗、事前準備の必要性を認識 交流相手に対する好意的な印象	交流の成功体験(原因) 中国語運用技能不足(原因)、失敗の悔しさ(結果)、準備不足に対する後悔(結果) 視覚情報による外見や対人コミュニケーションに対する好意的な評価	自己紹介の成功、コミュニケーション成立の喜び 中国語コミュニケーション能力不足の自覚と反省、事前準備の強化 ビデオチャットならではの視覚情報、キヤラクタに対するポジティブな評価	該当なし 自己紹介によって自己紹介が通じたと判断したのか？ どのような場面で「言いたいことが表現できなかった」のか？ 「やさしい」と感じたのはどのようなやり取り、場面だったのか？
学生 K B	初めて交流をして、最初は通じるか不安だったけど相手の理解力が高くてわかった。学校紹介もできました！ 質問されても、まだ先生が訳してくれないうえに、自分でも理解できないので、もっと単語を覚えて、自分でも理解できるようにしたいです。次はススム(の)次出れるときはもっとススムなコミュニケーションがとれるように頑張ります！ 我坚持(がんばるぞ)！	初めて交流、最初は通じるか不安だった、相手の理解力が高い、わかってくれた、自己紹介の他に学校紹介もできた 質問されても先生が訳してくれないうえに、自分でも理解できないので、もっと単語を覚えて、自分でも理解できるようにしたいです。次はススム(の)次出れるときはもっとススムなコミュニケーションがとれるように頑張ります！	交流初体験、コミュニケーションの不安、コミュニケーション能力の通じた、自己紹介の成功体験、学校紹介の成功体験 質疑応答の能力不足、教師の支援が必要、語彙力増強、支那の文化、ススムな会話の成立、次回への期待	交流の新鮮性とコミュニケーション不安(原因)、交流体験(結果)、成功体験(結果) 中国語運用技能不足(原因)、自力でのコミュニケーション失敗(結果)、課題の設定(結果)	交流相手の不安の認識、交流相手の反応、不安の緩和、達成感、成功体験 中国語コミュニケーション能力不足の自覚、語彙力の設定、学習動機の高さ	どのような場面で相手の理解力の高さを感じたのか？ 教師の支援はどの程度必要だったか？(語彙、表現など)
学生 K B A	初めて中国の方と直接交流して、とても良い経験になったと思います。(私の練習不足と能力不足のせいであまりススムに話せなかったけど、リー先生はとても優しく接してくれました。教科書では学べない会話表現も学べた) 私の練習不足と能力不足のせいであまりススムに話せなかったけど、(リー先生はとても優しく接してくれてわかってくれたので嬉しかったです。)	初めて直接交流、とても良い経験、リー先生はとても優しく接してくれてわかってくれた、嬉しかった、教科書では学べない会話表現も学べた 私の練習不足と能力不足のせいであまりススムに話せなかったけど、(リー先生はとても優しく接してくれてわかってくれたので嬉しかったです。)	交流初体験、価値の向上、交流相手のコミュニケーションに対する好意(原因)、交流相手の喜び(結果) 事前練習不足(原因)、中国語運用技能不足(結果)	交流の新鮮性(原因)、対面交流の価値(原因)、経験の価値(結果)、交流相手のコミュニケーションに対する好意(原因)、交流相手の喜び(結果) 事前準備と中国語コミュニケーション能力不足の自覚、学習動機の高さ	交流体験の機会に対する価値の肯定的評価、交流相手の意識によるコミュニケーション達成感、実践的語学学習の達成 事前準備と中国語コミュニケーション能力不足の自覚、学習動機の高さ	相手のどのような発話や態度を「優しく接してくれたい」と感じたのか？教科書で学べない会話表現は「一定！」「厉害！」以外に何だったか？ 具体的にどのような内容について「ススムに話せなかった」のか？

ストーリーライン (現時点で 言えること)	・学生 YZ は、あいさつ・自己紹介の遠隔交流活動に対して、中国人学生とのビデオチャットによる交流実践を行う機会を通じて、中国語コミュニケーションの成功体験を獲得したことに満足した(良かった点)。また、この体験を通じて、自分自身の中国語コミュニケーション技能不足を痛感し、その向上を課題として認識した(今後の課題)。中国人とのビデオチャットは新鮮な体験として印象づけられた(その他)。 ・学生 YG は、遠隔交流活動時に、自分の発言に対する期待を高める(良かった点)。交流時の緊張感によるネガティブな影響が原因で、即時の発話が困難となり、十分に能力が発揮されなかったことから、発音練習の強化や中国語コミュニケーション技能の向上の必要性を強く感じ、目標意識を高めた(今後の課題)。今回の交流は、相手の日本語能力の高さをポジティブに評価した(その他)。 ・学生 KBY は、遠隔交流前から強い緊張・不安を認識していたが、交流相手の反応により意思伝達の不安が緩和され、コミュニケーション成立の喜びを感じた(良かった点)。交流を通じて、楽しい会話の成立のためには正確な発音の習得が不可欠であると認識し、適切な質疑応答能力と併せて習得したいと実感した(今後の課題)。 ・学生 HM は、遠隔交流の体験に強い喜びを感じ、肯定的に評価した。また、交流相手の外国語(日本語)運用技能の高さを認識し、尊敬の念を抱き理想の自分へ投影すると同時に、それが中国語の学習動機向上にも反映された(良かった点)。一定程度のコミュニケーション成立を経験した上で、よりスムーズな交流を成立させ、会話を楽しむためには、事前準備の強化による中国語コミュニケーション技能の向上が必要であると認識した(今後の課題)。 ・学生 FY は、中国語コミュニケーション能力不足を痛感して深く反省し、事前準備の強化の必要性を認識した(今後の課題)。一方で、自己紹介の成功に対する喜びも感じた(良かった点)。中国語を通じて、ビデオチャット能力不足ではの埋算情報から交流相手のキャラクターに対する好意的な印象を抱き、ポジティブに評価した(その他)。 ・学生 KB は、遠隔交流前の不安を認識していたが、相手の反応からコミュニケーション成立を実感し、不安が緩和された。また、課題の達成感と交流の成功体験を得た(良かった点)。交流を通じて、教師の支援なしで交流することの困難を認識し、中国語コミュニケーション能力(特に語彙)不足を自覚したことから、明確な目標を設定し、その実現を目指して学習動機が向上した(今後の課題)。 ・学生 KBA は、初めての遠隔交流に対して、対面交流体験の機会に対する価値を肯定的に評価した。交流相手の態度によるコミュニケーション達成感や実践的語句学習の達成感を得た(良かった点)。事前準備と中国語コミュニケーション能力の不足を自覚したこと、学習動機が向上した(今後の課題)。 ・学生 YZ にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、中国語コミュニケーションの成功体験と自身の技能不足に対する気づきをもたらす貴重な機会と体験として意味づけられた。 ・学生 YG にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、交流相手の反応からコミュニケーションの成功体験を得たと同時に、即時適切な応答表現まで含めた中国語コミュニケーション技能向上の必要性に気づく機会となり、継続する価値のある活動として意味づけられた。 ・学生 KBY にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、交流相手の反応によりコミュニケーション成立を実感し、交流前から感じた強い緊張や不安が緩和された。交流を通じて、会話成立と同時に、発音や質疑応答能力向上の必要性と、課題克服後のさらなる期待感を得る機会として意味づけられた。 ・学生 HM は、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動に強い喜びを感じ、交流相手が巧みに日本語を運用する場面に直面し、学習動機向上を意識化した。円滑な交流を楽しむためには、練習強化による中国語運用技能向上が必要であることを認識する機会として意味づけられた。 ・学生 KB にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、全体を通じて事前準備と能力不足を自覚・反省することで、今後の練習強化による課題克服の必要性を認識する機会として意味づけられた。同時に、自己紹介成功の機会と、ビデオチャットならではの視覚情報から相手のキャラクターをより具体的に知る機会も得た。 ・学生 KB にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、教師の支援なしには交流が成立しないという体験から中国語コミュニケーション能力不足を自覚しながらも、交流相手の反応から成功体験を得ると共に、明確な課題意識化して学習動機を高める機会として意味づけられた。 ・学生 KBA にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、初めての価値ある交流体験となり、準備不足や能力不足を自覚したものの交流相手の態度によりコミュニケーションが成立し、実践的語句学習の達成感も得て、学習動機が向上する機会として意味づけられた。 ・学生 YZ は自己紹介がうまく相手に伝わったと感じたのは相手のどのような反応によるのか?相手のどのような言動でノリが良いと判断したのか?他の学生はリラックスしていたのか?聞き取れなかった単語は何か?質疑応答はどのように行われたのか?二回目以降も楽しいのか? ・学生 YG はなぜ緊張したのか?練習ではどの程度できていて、本番でどのように失敗したのか?なぜあいつが重要だと思ったのか?自分よりも上手だから「すごい」のか? ・学生 KBY はなぜ開始前からそこまで緊張していたのか?どのようなように緩和されていったのか?めっちゃやちゃは何かどうなっていたのか?なぜそう感じたのか? ・学生 HM は何かどう楽しかったのか?「励まされた」の具体的な意味は何か?何をどう練習して頑張る必要があるのか?どの程度会話が成立したのか? ・学生 FY は何によって自己紹介が通じたかと判断したのか?どのような場面「言いたいことが表現できなかった」のか?「やさしい」と感じたのはどのようなやり取り・場面でったか? ・学生 KB はどのような場面で相手の理解力の高さを感じたのか?教師の支援はどの程度必要だったか? (語彙、表現など) ・学生 KBA は相手のどのような発話や態度を「優しく接してくれた」と感じたのか?教科書で学べない会話表現は「一定!」「厉害!」以外に何だったか?具体的にどのような内容について「スムーズに話せなかった」のか?
理論記述	・学生 YZ は、あいさつ・自己紹介の遠隔交流活動に対して、中国人学生とのビデオチャットによる交流実践を行う機会を通じて、中国語コミュニケーションの成功体験を獲得したことに満足した(良かった点)。また、この体験を通じて、自分自身の中国語コミュニケーション技能不足を痛感し、その向上を課題として認識した(今後の課題)。中国人とのビデオチャットは新鮮な体験として印象づけられた(その他)。 ・学生 YG は、遠隔交流活動時に、自分の発言に対する期待を高める(良かった点)。交流時の緊張感によるネガティブな影響が原因で、即時の発話が困難となり、十分に能力が発揮されなかったことから、発音練習の強化や中国語コミュニケーション技能の向上の必要性を強く感じ、目標意識を高めた(今後の課題)。今回の交流は、相手の日本語能力の高さをポジティブに評価した(その他)。 ・学生 KBY は、遠隔交流前から強い緊張・不安を認識していたが、交流相手の反応により意思伝達の不安が緩和され、コミュニケーション成立の喜びを感じた(良かった点)。交流を通じて、楽しい会話の成立のためには正確な発音の習得が不可欠であると認識し、適切な質疑応答能力と併せて習得したいと実感した(今後の課題)。 ・学生 HM は、遠隔交流の体験に強い喜びを感じ、肯定的に評価した。また、交流相手の外国語(日本語)運用技能の高さを認識し、尊敬の念を抱き理想の自分へ投影すると同時に、それが中国語の学習動機向上にも反映された(良かった点)。一定程度のコミュニケーション成立を経験した上で、よりスムーズな交流を成立させ、会話を楽しむためには、事前準備の強化による中国語コミュニケーション技能の向上が必要であると認識した(今後の課題)。 ・学生 FY は、中国語コミュニケーション能力不足を痛感して深く反省し、事前準備の強化の必要性を認識した(今後の課題)。一方で、自己紹介の成功に対する喜びも感じた(良かった点)。中国語を通じて、ビデオチャット能力不足ではの埋算情報から交流相手のキャラクターに対する好意的な印象を抱き、ポジティブに評価した(その他)。 ・学生 KB は、遠隔交流前の不安を認識していたが、相手の反応からコミュニケーション成立を実感し、不安が緩和された。また、課題の達成感と交流の成功体験を得た(良かった点)。交流を通じて、教師の支援なしで交流することの困難を認識し、中国語コミュニケーション能力(特に語彙)不足を自覚したことから、明確な目標を設定し、その実現を目指して学習動機が向上した(今後の課題)。 ・学生 KBA は、初めての遠隔交流に対して、対面交流体験の機会に対する価値を肯定的に評価した。交流相手の態度によるコミュニケーション達成感や実践的語句学習の達成感を得た(良かった点)。事前準備と中国語コミュニケーション能力の不足を自覚したこと、学習動機が向上した(今後の課題)。 ・学生 YZ にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、中国語コミュニケーションの成功体験と自身の技能不足に対する気づきをもたらす貴重な機会と体験として意味づけられた。 ・学生 YG にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、交流相手の反応からコミュニケーションの成功体験を得たと同時に、即時適切な応答表現まで含めた中国語コミュニケーション技能向上の必要性に気づく機会となり、継続する価値のある活動として意味づけられた。 ・学生 KBY にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、交流相手の反応によりコミュニケーション成立を実感し、交流前から感じた強い緊張や不安が緩和された。交流を通じて、会話成立と同時に、発音や質疑応答能力向上の必要性と、課題克服後のさらなる期待感を得る機会として意味づけられた。 ・学生 HM は、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動に強い喜びを感じ、交流相手が巧みに日本語を運用する場面に直面し、学習動機向上を意識化した。円滑な交流を楽しむためには、練習強化による中国語運用技能向上が必要であることを認識する機会として意味づけられた。 ・学生 KB にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、全体を通じて事前準備と能力不足を自覚・反省することで、今後の練習強化による課題克服の必要性を認識する機会として意味づけられた。同時に、自己紹介成功の機会と、ビデオチャットならではの視覚情報から相手のキャラクターをより具体的に知る機会も得た。 ・学生 KB にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、教師の支援なしには交流が成立しないという体験から中国語コミュニケーション能力不足を自覚しながらも、交流相手の反応から成功体験を得ると共に、明確な課題意識化して学習動機を高める機会として意味づけられた。 ・学生 KBA にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、初めての価値ある交流体験となり、準備不足や能力不足を自覚したものの交流相手の態度によりコミュニケーションが成立し、実践的語句学習の達成感も得て、学習動機が向上する機会として意味づけられた。 ・学生 YZ は自己紹介がうまく相手に伝わったと感じたのは相手のどのような反応によるのか?相手のどのような言動でノリが良いと判断したのか?他の学生はリラックスしていたのか?聞き取れなかった単語は何か?質疑応答はどのように行われたのか?二回目以降も楽しいのか? ・学生 YG はなぜ緊張したのか?練習ではどの程度できていて、本番でどのように失敗したのか?なぜあいつが重要だと思ったのか?自分よりも上手だから「すごい」のか? ・学生 KBY はなぜ開始前からそこまで緊張していたのか?どのようなように緩和されていったのか?めっちゃやちゃは何かどうなっていたのか?なぜそう感じたのか? ・学生 HM は何かどう楽しかったのか?「励まされた」の具体的な意味は何か?何をどう練習して頑張る必要があるのか?どの程度会話が成立したのか? ・学生 FY は何によって自己紹介が通じたかと判断したのか?どのような場面「言いたいことが表現できなかった」のか?「やさしい」と感じたのはどのようなやり取り・場面でったか? ・学生 KB はどのような場面で相手の理解力の高さを感じたのか?教師の支援はどの程度必要だったか? (語彙、表現など) ・学生 KBA は相手のどのような発話や態度を「優しく接してくれた」と感じたのか?教科書で学べない会話表現は「一定!」「厉害!」以外に何だったか?具体的にどのような内容について「スムーズに話せなかった」のか?
さらに追究すべき点・課題	・学生 YZ は、あいさつ・自己紹介の遠隔交流活動に対して、中国人学生とのビデオチャットによる交流実践を行う機会を通じて、中国語コミュニケーションの成功体験を獲得したことに満足した(良かった点)。また、この体験を通じて、自分自身の中国語コミュニケーション技能不足を痛感し、その向上を課題として認識した(今後の課題)。中国人とのビデオチャットは新鮮な体験として印象づけられた(その他)。 ・学生 YG は、遠隔交流活動時に、自分の発言に対する期待を高める(良かった点)。交流時の緊張感によるネガティブな影響が原因で、即時の発話が困難となり、十分に能力が発揮されなかったことから、発音練習の強化や中国語コミュニケーション技能の向上の必要性を強く感じ、目標意識を高めた(今後の課題)。今回の交流は、相手の日本語能力の高さをポジティブに評価した(その他)。 ・学生 KBY は、遠隔交流前から強い緊張・不安を認識していたが、交流相手の反応により意思伝達の不安が緩和され、コミュニケーション成立の喜びを感じた(良かった点)。交流を通じて、楽しい会話の成立のためには正確な発音の習得が不可欠であると認識し、適切な質疑応答能力と併せて習得したいと実感した(今後の課題)。 ・学生 HM は、遠隔交流の体験に強い喜びを感じ、肯定的に評価した。また、交流相手の外国語(日本語)運用技能の高さを認識し、尊敬の念を抱き理想の自分へ投影すると同時に、それが中国語の学習動機向上にも反映された(良かった点)。一定程度のコミュニケーション成立を経験した上で、よりスムーズな交流を成立させ、会話を楽しむためには、事前準備の強化による中国語コミュニケーション技能の向上が必要であると認識した(今後の課題)。 ・学生 FY は、中国語コミュニケーション能力不足を痛感して深く反省し、事前準備の強化の必要性を認識した(今後の課題)。一方で、自己紹介の成功に対する喜びも感じた(良かった点)。中国語を通じて、ビデオチャット能力不足ではの埋算情報から交流相手のキャラクターに対する好意的な印象を抱き、ポジティブに評価した(その他)。 ・学生 KB は、遠隔交流前の不安を認識していたが、相手の反応からコミュニケーション成立を実感し、不安が緩和された。また、課題の達成感と交流の成功体験を得た(良かった点)。交流を通じて、教師の支援なしで交流することの困難を認識し、中国語コミュニケーション能力(特に語彙)不足を自覚したことから、明確な目標を設定し、その実現を目指して学習動機が向上した(今後の課題)。 ・学生 KBA は、初めての遠隔交流に対して、対面交流体験の機会に対する価値を肯定的に評価した。交流相手の態度によるコミュニケーション達成感や実践的語句学習の達成感を得た(良かった点)。事前準備と中国語コミュニケーション能力の不足を自覚したこと、学習動機が向上した(今後の課題)。 ・学生 YZ にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、中国語コミュニケーションの成功体験と自身の技能不足に対する気づきをもたらす貴重な機会と体験として意味づけられた。 ・学生 YG にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、交流相手の反応からコミュニケーションの成功体験を得たと同時に、即時適切な応答表現まで含めた中国語コミュニケーション技能向上の必要性に気づく機会となり、継続する価値のある活動として意味づけられた。 ・学生 KBY にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、交流相手の反応によりコミュニケーション成立を実感し、交流前から感じた強い緊張や不安が緩和された。交流を通じて、会話成立と同時に、発音や質疑応答能力向上の必要性と、課題克服後のさらなる期待感を得る機会として意味づけられた。 ・学生 HM は、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動に強い喜びを感じ、交流相手が巧みに日本語を運用する場面に直面し、学習動機向上を意識化した。円滑な交流を楽しむためには、練習強化による中国語運用技能向上が必要であることを認識する機会として意味づけられた。 ・学生 KB にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、全体を通じて事前準備と能力不足を自覚・反省することで、今後の練習強化による課題克服の必要性を認識する機会として意味づけられた。同時に、自己紹介成功の機会と、ビデオチャットならではの視覚情報から相手のキャラクターをより具体的に知る機会も得た。 ・学生 KB にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、教師の支援なしには交流が成立しないという体験から中国語コミュニケーション能力不足を自覚しながらも、交流相手の反応から成功体験を得ると共に、明確な課題意識化して学習動機を高める機会として意味づけられた。 ・学生 KBA にとって、自己紹介をテーマとした遠隔交流活動は、初めての価値ある交流体験となり、準備不足や能力不足を自覚したものの交流相手の態度によりコミュニケーションが成立し、実践的語句学習の達成感も得て、学習動機が向上する機会として意味づけられた。 ・学生 YZ は自己紹介がうまく相手に伝わったと感じたのは相手のどのような反応によるのか?相手のどのような言動でノリが良いと判断したのか?他の学生はリラックスしていたのか?聞き取れなかった単語は何か?質疑応答はどのように行われたのか?二回目以降も楽しいのか? ・学生 YG はなぜ緊張したのか?練習ではどの程度できていて、本番でどのように失敗したのか?なぜあいつが重要だと思ったのか?自分よりも上手だから「すごい」のか? ・学生 KBY はなぜ開始前からそこまで緊張していたのか?どのようなように緩和されていったのか?めっちゃやちゃは何かどうなっていたのか?なぜそう感じたのか? ・学生 HM は何かどう楽しかったのか?「励まされた」の具体的な意味は何か?何をどう練習して頑張る必要があるのか?どの程度会話が成立したのか? ・学生 FY は何によって自己紹介が通じたかと判断したのか?どのような場面「言いたいことが表現できなかった」のか?「やさしい」と感じたのはどのようなやり取り・場面でったか? ・学生 KB はどのような場面で相手の理解力の高さを感じたのか?教師の支援はどの程度必要だったか? (語彙、表現など) ・学生 KBA は相手のどのような発話や態度を「優しく接してくれた」と感じたのか?教科書で学べない会話表現は「一定!」「厉害!」以外に何だったか?具体的にどのような内容について「スムーズに話せなかった」のか?